

小泉首相が靖国参拝

終戦記念日は21年ぶり

中韓の反発必至

関係改善は 次期政権に

小泉純一郎首相は十五日午前、東京・九段北の靖国神社を参拝した。首相は二〇〇一年の就任以来、年に一回の参拝を続け、今回が六回目だが、終戦記念日の参拝は初めてで、現職首相としては一九八五年の中曽根康弘氏以来二十一年ぶり。



参拝のため靖国神社に到着した小泉首相―15日午前7時40分、東京・九段北

日本海新聞特別号外

日本海新聞購読のお申し込みは、フリーダイヤル 0120(23)4141

九月退陣を前に、〇一年の自民党総裁選で宣言した「公約」を果たす狙いがある。昭和天皇がA級戦犯合祀(ごうし)に不快感を示したとされる元宮内庁長官のメモ判明後の参拝だけに、党総裁選や次期首相の政権運営で靖国問題が大きな焦点になるのは確実。中韓両国があらためて反発を強めるのも必至で、関係改善はポスト小泉に委ねられる。

首相は十五日午前八時前にモーニング姿で秘書官を伴い、公用車で靖国神社に到着。昨年十月は背広姿で一般客と同様に拝殿前で参拝して「私的」色を出したが、今回は本殿に上がった。

首相は「天皇発言メモ」が明らかになった後も「(参拝は)心の問題であり、強制されるものではない。誰でも自由だ」と強調。後継の有力候補である安倍晋三官房長官の四月参拝も「個人の自由だ」と理解を示した。

また、中韓両国の批判には「日本の首相が日本の施設で、戦没者に哀悼の念を表することは決して悪いことではない」と重ねて反論。九日には「公約は守るべきもの」と十五日に参拝する意向を示していた。